

令和7年度(2025年度)小中高生の外務省訪問
(11月分)

令和7年12月1日

●群馬県 前橋高等学校(令和7年11月5日)

講 師: 塩水流諒平 中米カリブ課 主査

開催形式: 対面



●三重県 晓中学校・高等学校(令和7年11月5日)

講 師: 中川智博 経済連携課 首席事務官

開催形式: 対面



●福岡県 伝習館高等学校(令和7年11月6日)

講 師: 近藤庸史 人事課 課長補佐

開催形式: 対面



●群馬県 県立太田女子高等学校(令和7年11月7日)

講 師: 石川亘 軍備管理軍縮課 課長

開催形式: 対面



●静岡県 菊川市立堀之内小学校(令和7年11月19日)

講 師: 清水真央 広報文化外交戦略課 課長補佐

開催形式: 対面



●高知県 土佐高等学校(令和7年11月19日)

講 師: 山崎将太 欧州局政策課 主査

開催形式: 対面



参加生徒からの感想(抜粋)

- 外務省には漠然としたイメージしかなかったが、懇談を通じて、その組織や「外交」の意味、具体的な仕事内容を深く理解できた。
- 仕事内容に強い興味を持ったと同時に、外務省は自身の得意分野を活かして働くことのできる魅力的な場所だと感じた。
- 大変な仕事ながらも大きなやりがいがあり、自身の進路の選択肢として外務省を真剣に視野に入れるきっかけとなった。
- 外務省の活動が国際社会の平和・安全に貢献していることを知り、自身の視野が大きく広がった。これまで関心が薄かった世界情勢への興味が深まり、今後積極的に学んでいきたいという意欲が湧いた。

先生からの感想(抜粋)

- 日常では触れることのない貴重な話は、生徒たちの知的好奇心を刺激し、有意義な時間となつた。
- 次代を担う生徒たちの興味関心を惹きつける内容であったとともに、学校での座学のみでは得られない、学びの機会となつた。